

主審なしで選手自身による判定で行われるセルフジャッジの試合方法について、今回は国際テニス連盟の認めている主審なしでの試合方法に沿って変更することとなりました。選手には今まで以上にスポーツマンシップに則ったフェアな判定が求められます。審判員の皆様はその内容を理解し正しい対応をお願いいたします。

1、コールできる選手の変更

「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」に関して**両プレーヤー/チーム**がコールできる。「アウト」「フォールト」「フットフォールト」「レット」「オーバールール」「ヒンダランス」は変更ありません。

2、ミスジャッジを直ちに訂正した場合

インだったボールを誤って「アウト」とミスジャッジしたが、直ちにコレクションした場合は、1 回目はポイントレットとなる。2 回目以降は失点する。明らかなウイニングショットは 1 回目から失点する。ダブルスの 1 人が訂正すればチームが訂正したこととなる。

3、ロービングアンパイアにオーバールールされた場合

レフェリー、アシスタントレフェリー、ロービングアンパイアのいずれかがコート外にいて目に余るミスジャッジを目撃した場合は、直ちにコートへ入り 1 回目はポイントレットとする。2 回目以降は失点する。明らかなウイニングショットは 1 回目から失点する。

4、トラブルの解決方法

- ・ライン判定でトラブルが起こったら、まず判定をした選手に 100%自信があるかを確認する。自信があればポイント成立。自信がなくラインと着地点の間に隙間がなかった場合はグッドとなることを説明する。
- ・両者がコールできる判定についてトラブルが起こった場合は、両者から状況を聞き適切な判断をする。状況判断を正しくするため、選手からできるだけその状況を詳しく聞く。両者が自分の判定を譲らない場合は、もう一度その状況を思い出していただき 100%の確信がなければ相手へ有利にというフェアな判定をするよう促す。

5、トラブルの予知と対応

- ・試合中の選手の不満そうな表情、大声、大きな物音に注意を払う。その近くで様子を見る。
- ・公正中立の立場を守り、分かりやすい言葉遣いで対応と説明を行う。
- ・解決できない、よくわからないときはできるだけ早くレフェリー、アシスタントレフェリーを呼ぶ。

6、今回の変更は主審なしの試合に関するもので、SCU に関して変更はありません。